

教育課程の実践的研究(2)

神戸大学教育学部附属幼稚園

野村泰子
堂野晃子

五、カリキュラム運営の実際と問題点

(一) 運営の実際

1 週案

まず月単位の指導計画から週単位の指導計画を考えた。週計画作成について特に注意した事項は次のとおりである。

- ① 週計画は一週間の生活が連続できるように配慮する。
 - ② 一週間のおもな生活は、単に教師ばかりでなく幼児にも理解させ、できるだけ幼児の自主的自発的な態度を刺激し、希望や期待をもたせる。
 - ③ 今週の進展を考慮し、翌週の計画を修正したり調整したりする。
- 以上を注意して立案する。
- 2 日案
- 日案つまり一日のプログラムであるが基本的にどのような注意が必要であるかという点、

- ① 一日の教育時間は四時間を原則とするが、季節、幼児の年齢を考慮して適切にきめる。
 - ② 登園したとき、帰る前に必ず幼児の健康状態をみる時間をもつ。
 - ③ その日のおもな計画について教師と幼児が話し合う時間をもつ。
 - ④ 毎日きまってしまうことも計画から欠かさない。
 - ⑤ 一日の生活展開は幼児にとって楽しく豊かにする。
 - ⑥ 一日の生活設計はリズムカルにする。
 - ⑦ 一人ひとりの幼児を全体的、統一的にながめ経験の均衡をはかる。
 - ⑧ 幼児の興味、欲求を満たし、生理的条件に適応しなくてはならない。(特に休息に注意する)
 - ⑨ 室内と戸外の生活を適当に配分する。
 - ⑩ 前後日との流れが流動的になるようにする。
- 3 単元展開例(その一)

(1) 年少組 男十六名 女十八名 計三十四名

(2) 時期 四月中旬～下旬

(3) 単元 友だちと先生

(4) 設定の理由

① 四月の努力目標として「たのしく幼稚園に行きましょう」をとりあげ、単元「うれしい幼稚園」「友だちと先生」の二単元を設定した。

② 今まで家庭生活をしていた幼児が初めて新しい生活（集団生活）をするのであり、その人間関係として先生とお友だちが中心になるのでこの単元をとりあげ四月の望ましい経験をさせたい。

(5) 指導の要点

① 年内を通じて生活経験の均衡をたもたせるために、本単元は先生と友だちとの最初の生活をどのように経験させることが入園当初の望ましい活動であるかを特にねらった。

② 「うれしい幼稚園」の単元においては幼稚園のようすを子どもによく知らせることをねらったので、本単元ではだんだんと集団生活ができるように、年長組のお友だちと遊具や教具を使って遊んだり、先生にさそわれたのしく遊ぶことができることをねらった。

③ 年少組三十四人中集団生活に入れないで、泣いたり、付添いからはなれない子どもは、教師は特に友だち関係、教師との接触を多くして早く集団生活に入るようにする。

(6) 指導経過（次頁の表を参照）

単元展開例（その二）

(1) 年長組 男十七名 女十七名 計三十四名

(2) 時期 四月中旬～下旬

(3) 単元 新しいお友だち

(4) 設定の理由

① 四月は待ちに待っていた年長組になったよろこびと、年少組を迎えたよろこびにすべての子どもたちは胸をおどらせている。このよろこびは大きくなったということ、新しい遊びが友だちがふえてうれしいという二つの気もちである。この時期に「新しいお友だち」をとりあげることにより、交友関係をたのしいものとさせたい。

② 新入園児は幼稚園の生活については全く未知である。そこで何ごとも年少組の上に立ってお手本となり、年少組をかわいがって遊んであげるよい時期である。

(5) 指導の要点

① 年長組になったよろこびは年少組を迎えて自分たちはお兄さんお姉さんになったという気持によって倍加するが、これをしっかり自覚すること。

② 小さな新しいお友だちをいっしょに遊んであげたり、親切にしてあげる態度を身につける。

③ 子どもも集団生活になれて新しい友だち関係を拡張していくことをねらう。

4 単元外活動の指導

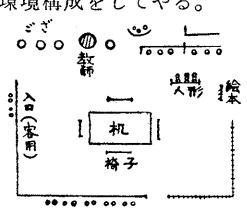
質的、量的に深化拡大させるように次の点を考慮して指導する。

4月	お友だちと先生	目標	年長組のお友だちの遊びをみることに より、自分たちも好きな遊びをみつけて、 たのしく遊ぶことができる。
16日～27日	友だちや先生とあそぶ		

幼児の活動	指導上の留意点	実践の反省
-------	---------	-------

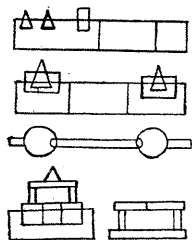
○友だちや先生とあそぶ
 ・年長組の遊びをみる
 ・遊戯室での積み木遊び
 ・テラスで粘土遊び
 ・ままごととあそび
 ・小鳥や兎の世話をしているのを見るなど。
 ・お部屋のあそび
 ・ままごと
 ×ままごととセット、ご
 ざつみ木などで用意
 された場所を利用す
 る。
 ×草花で御馳走づくり
 ×年長組のお友だちが
 入って来て一緒に遊
 ぶ。
 ×裏庭に草つみに行く
 御馳走をお客様に出
 す。
 ×年少と年長の子ども
 は御馳走をつくった
 のを交互にする。
 ×人形をねかせる。

○じゃまをしないで見る態度を
 養うために、お友だち二人手
 やつみ木遊びの道具の名まえに
 やや見廻り、遊び方
 づか
 せ。
 ○年長組の遊びをみることに
 自分も紐の汽車ののって走
 りてみたり、ままごとのごち
 そう持つりがしてみたいとい
 う気持ちもつよに仕向ける
 ○遊具や玩具の使い方がわかり
 お友だちと遊ぶようにする。
 ○付添からはなれなかつたり、
 人の遊びをぼんやりみていな
 りする子どもが遊びの中に入
 るように、教師はさそいかけ
 ていっしょに遊んでやる。
 ○ままごととセット、ござ、つみ
 木、花、草などを用意してや
 り、遊びたいという意欲をも
 たせる。
 ○教師は準備した小道具や机を
 出して、図のように配置して
 環境構成をしてやる。



○年少組女児I子は入園翌日か
 ら年長組の部屋に行き遊びを
 みて廻っても、子ども同志で
 名まえをよぶ、あひ、つな
 ができてよかった。
 ○年長組の女児が特別保育室で
 ままごと遊びをしているのを
 I子がままごと遊びをしてみ
 ここのように積極性のある子
 どもによって、次への遊びの発
 展に影響した。
 ○保育室はいつも椅子と机を固
 定しないで、度々場の内容の
 変えてやったり、たので、子
 どもの活動が力動的であった。
 ○指導上の留意点にでている図
 式のように、教師が初め環境
 をととのえてやったり。
 ○年長組の女児、男児がまま
 ごとを部屋に入ってきてま
 ごと遊びをみている。すぐ遊
 びの中に入ろうとしなかつた
 年少組女児I子が友だち(K
 子年長組)の名まえをよんだ
 と共に教師が「いっしょに遊
 びましょう」とさそいかけた
 ので入った。年長組7、8人
 の子どもが中心になって遊ん
 だので、教師は他の遊びのグ
 ループに入っていって。
 ○御馳走にする適当な花や草が
 少ないので、花壇にもつくって
 やりたいと思った。

・つみ木遊び
 ×つむ
 ×ならべる
 ×動かす
 ×穴に通す
 ×たたく
 ×連結させるなど



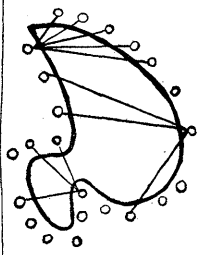
○教師は御馳走づくりの場所
 ともいっしょにしてやる。
 ○箱つみ木、とんとんつみ木な
 用をテラスにござを置いて用
 意したままごと遊びに
 入れない子ども、特に男児に
 はこの遊びをさそいかけてや
 る。
 ○後しまつが中々できないが、
 遊んだあとは、やりっぱなし
 にならないように教師もいっ
 しょになってかたづける。

○つみ木の箱が割に重いので遊
 びに入りやすいようにテラス
 に出しておいたのが効果的だ
 った。傍観者も多かったが
 男児が興味をもって遊んで
 いた。
 ○年長組の男児Kが車のついた
 汽車をもって来てつみ木のま
 わりを動かしたので、年少組
 の男児もつんだりならべたり
 していた。つみ木を前、後に
 動かし、しゅっしゅっとい
 いながら静的から動的に發展
 した。

以下省略

自由遊びの実際指導例 舟遊び

も び の 場	遊 び の か 態	教 師 の 働 き かけ	結 果
舟あそびの話し	○金属性(ゼンマイ)の既成の目(か)けは木製の舟を子どもがたがわった。	①池の舟あそびがはじは問そまなでめ まのるあそびののしよ 題がいきおののしよ れず見ると次のしよ 約を初にしあんいん 束とりあけんいん とじましよ ②交代う。げましよ ③大事につかいましよ ④池へはまらないよう にしましよ。この箱 ⑤使った後は、こま の中へかたづけま しよ。	○教師と話末とがきよ ○子どもと紙うるにわック舟こく たての「わい」イれは たの「す」とんキ箱 れいすといいいキ箱 いと「わい」イれは たの「す」とんキ箱 れいすといいいキ箱
庭の池で舟を走らせて遊ぶ	○夏になる水の子どもが子どもど もが呼ぶのか、子どくと のぶを求めないが、とく のかしら水遊びがと興味 かか走らす事とい 舟中興味 ○高池いこかから舟を が大勢にかかった。水 ○舟の数がたりな舟にク のため、年長組のジ は、きく、とを サイ	○高しとろから舟を 落しこかにめがたか 子どもたのしでぶぎ かると「もぐりつた かると「もぐりつた も勢といかか 困ていてか がやうと示 ○これかたう てしよ	○なるほどういっ顔を でもう荒れたことし なくなつた。 ○数たりない竹ぼ うきや、池の底もし きて、舟をひろ んだこ熱中 こ



(二) 問 題 点

- ① 季節的配慮
 - ② 単元活動との関連
 - ③ 環境(人的、物的)
 - ④ 行事
 - ⑤ 家庭の協力
- 自由遊びは次の両面が考えられると思う。
- ① 幼児が個々自由意志をもって遊びを選
択する場合。
 - ② 自由意志ではあるが幾分教師の働きか
けをもって遊ぶ場合。
- さきに述べたようにカリキュラム作製に意
味があるのでなくその効果的な作用、つまり
運営の方法に興味がある。実際わたくしたち
が運営していく上にいくたの問題点をもって
いるがその問題をどの角度からきりこんでい
くか、そこに大いなる成長と、教育の効果が
あらわれていくと思う。本園では二カ年計画
の教育課程作製、運営した結果次のような問
題を年次計画で逐次研究していき、子どもの
よりよい成長をねがっている。
- ① 幼稚園における道徳教育のありかた
 - ② 幼児の言語生活を高める指導
 - ③ 集団の中で個人をのばす指導技術
 - ④ 幼児の健康について
- 以上